

守谷市教育委員会点検評価意見

点検評価委員 菊 池 修

1 教育委員会

守谷市教育委員会は、定例会 12 回、臨時会 1 回を開催し、教育に関する事務の管理及び執行、給食センター事業、図書館事業、生涯学習・社会教育事業に関する基本的事項の審議を行い、様々な施策を展開し成果を上げている。

学校教育・指導事業においては、事務局と密接に連携し、「守谷市学校教育プラン」を推進して大きな成果を上げている。また、学校訪問や各種行事に積極的に参加することで現場の状況を把握し、教育行政に反映させている。

2 学校教育・指導事業

(1) 教育環境の整備・充実

平成 26 年度から 3 年計画で行われているトイレの洋式化工事が進められ、快適な学習環境づくりが一段と進められた。小中学校のトイレ改修工事は平成 27 年度以降国庫補助がなくなるが、一般財源だけで予定どおり実施することとなった。また、老朽化した校舎の安全を図るための大規模改修や児童生徒数の増加に対応するための校舎増築も着実に進められている。これらは、学校教育環境を整備しようとする守谷市の積極的な姿勢の表れであり、安心安全を重視した取組として高く評価できる。

一方、校舎や体育館には 30 年以上経過した施設もあり、大規模改修が必要である。学校施設は、市民のスポーツ・レクリエーション活動の場としても有効に利用されており、これらの施設を整備することは学校教育のみならず、市民の生涯学習の面からも強く望まれる。

各小中学校に指導者用タブレット端末を教員相当数配備し、教員の ICT 活用指導能力の向上が図られた。また、電子黒板を各教室に配備し、分かりやすい授業による学力の向上が図られ、情報教育環境の整備が大いに進められた。

(2) 学校教育プラン

●確かな学力の育成

各小中学校において、授業研究と研究協議が活発に行われている。「分かりやすい授業の展開」など具体的なテーマを設定したり、「自分の考えを発表することが多いと回答する児童の割合を 85% とする」と定着度を数値目標化したりして校内研修が行われ、教員の授業力を高める努力がな

されていることは大変心強い。また、少人数加配教員に加えて、守谷市独自の学習支援ティーチャーを積極的に活用して発展的な学習と補充的な学習が行われており、個に応じた教育が効果的に推進されている。さらに、市基礎学力統一テストで小学校1・2年生の学力を把握し、目標点数に達しない児童には昼休みや放課後に繰り返して指導を行って、学力の定着を図っている。これら教職員と教育委員会の努力は、茨城県学力診断テストにおいて全ての学校で県平均値を上回る結果として表れており、高く評価できる。

守谷市の特別支援教育は、茨城県において先導的役割を果たしていくことが期待されている。平成26年度には前年度に引き続き御所ヶ丘中学校区が文部科学省のインクルーシブ教育システム構築モデル地域に指定され、域内の教育資源を組み合わせながら、子ども一人ひとりのニーズに応える仕組みを構築している。保・幼・小・中・高の一貫した支援を実施する今後の取組にも大いに期待が持てる。

●豊かな心をはぐくむ教育の推進

毎日のあいさつ運動や無言清掃運動などが各学校で積極的に行われ、規範意識の高揚が図られていることは好ましい。小学校1・2年生に対しては、学習支援ティーチャーを配置したきめ細かな支援により、基本的な生活習慣の定着と生活リズムの向上が図られている。中学校において、いじめ防止を目指した「いじめ撲滅宣言」の設定やクリーン作戦などのボランティア活動が生徒の自主的活動で行われていることも大変好ましい。

児童生徒の不登校率を全国的にみると、平成24年度までは減少傾向にあったが、その後増加している。守谷市も同様の傾向にあるが、小学生の不登校率が高いのが気になる。家庭と連携した個別の対応や児童生徒や保護者に対する教育相談を行って、不登校の解消に努めていることは評価できる。文部科学省は、不登校児童生徒の学習指導や進路相談を行う支援員を自宅に派遣する事業を行う方針を決めている。この方向に沿った指導・支援方法も含めて、問題解決に向けた一層の努力をお願いしたい。

●健康と体力をはぐくむ教育の推進

小学校において、持久走やなわとびを様々な工夫を凝らして実施し、体力と運動能力の向上が図られている。中学校においては、体育授業を充実させ、部活動を活発に行うことで体力の向上が図られている。これらの結果、茨城県の児童生徒の体力は全国で2～3位と高い水準にある。各小中学校での体育授業や部活動の成果として評価できる。

●新しい時代に対応した教育の推進

各小中学校において、外国語指導助手（ＡＬＴ）による授業やＡＬＴを活用した様々な試みが行われ、英語力の向上と英語への関心が格段に高められている。児童生徒とともに保護者からも歓迎の声が聞かれる。守谷市の中学３学年時における英語検定３級以上の取得率は平成２６年度には３８．６％まで上昇し、全国平均（約２０％）を大きく上回っている。守谷市は全国に先駆けてＡＬＴを全校に配置し、児童生徒が外国語に触れる機会が増やしてきたが、その成果がはっきりと現れている。

ＩＣＴ教育では県内トップレベルの環境整備が進んでいる。この環境を授業で有効に生かしていくためには教員に高いＩＣＴ活用能力が求められる。各学校現場では相互研修や実践によって教員のＩＣＴ指導力向上を求める声がある。個々の教員をサポートする体制が必要かとも思われる。

キャリア教育として、児童生徒の勤労観、職業観を育てる教育が進められている。松前台小学校と御所ヶ丘中学校においては、職場見学、職場体験、進路選択など、児童生徒の発達段階に応じた系統的学習が意欲的に行われている。

●開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携

各学校のホームページは毎日更新されており、学校行事や児童生徒の活動状況が家庭や地域社会へ積極的に発信されている。保護者からはその日の学校の様子が分かると高い評価を得ている。

各学校は、地域社会人ボランティアをはじめ地域の人材の協力を得て、特色ある学校づくりを進めている。学習ボランティアの協力を得て授業サポートや個別学習で効果を上げている。地域ボランティアの協力により、登下校時の交通安全指導や清掃活動による環境整備が行われている。地域社会に開かれた学校づくりは児童生徒の教育に効果的に反映されるだろう。

吹奏楽部の演奏会、母校訪問、部活動体験、中学校教師による出前授業など、各小中学校で特色ある取組が行われ、児童生徒ならびに教職員の連携・交流が盛んである。また、愛宕中の保育実習、郷州小学校の近隣幼稚園・保育所との連携、松前台小学校の守谷高校との交流など、保育園・幼稚園、高等学校を含めた連携・交流も盛んに行われている。

3 給食センター事業

調理業務従事者の衛生管理、調理機器・用具の消毒の徹底、食材の安全確保など、衛生管理が徹底され、事故の発生も無く、安全で安定した学校給食が供給されている。献立表を市のホームページに掲載して保護者に知らせたり、児童生徒等からの現場の声を反映させたり、食物アレルギーを持つ児童生徒へ適切に対応したりして、栄養管理に加えて食育にも配慮した献立作り

を行っていることは評価できる。

平成26年度から2年計画で行われる施設改修工事が順調に進められた。この改修工事により調理環境が改善され、一層安全な衛生管理の下で児童生徒に給食が提供されると期待できる。

4 生涯学習・社会教育事業

中央公民館と各公民館のホールや集会所を利用したサークル活動が活発に行われていることから、市民の自主的な学習活動を支援する事業が順調に進められていることがうかがえる。公民館講座・教室は79事業に及び、意欲的に開催されている。講座・教室終了後にサークルとして発足する例も見られ、市民の生涯学習活動を後押ししている。

市民のスポーツ活動の場として学校体育施設が開放されることは、市民にとって大変喜ばしいことである。学校施設を利用する団体は120以上、土曜・日曜日には午前9時から午後5時まで全小学校のグラウンドが利用されている状況にある。市民の健康づくりと体力の向上に大きく貢献しており、この取組は高く評価できる。

健康スポーツフェスティバルの開催、各種スポーツ教室の開催、市民各種スポーツ大会などが企画され、市民の健康づくりが推進され、スポーツ活動の充実が図られている。高齢者の健康づくり・体力維持を目的とした企画も大切かと思われる。

5 図書館事業

図書館協議会で意見を伺いながら、市民の意向を反映した図書館運営とサービスを行っている。中央図書館と4地区公民館図書館は連携し、「利用しやすい図書館」を目指して活動している。希望した予約本を最寄りの公民館図書室で受け取るサービスが定着し、図書館ネットワークを通じて公平な利用サービスが提供できている。本の予約・リクエスト数は年々増加し、その数は全国の同規模の図書館の中でも多く、図書館が活発に利用されていることを示している。

市民ボランティアの協力により年間5,000冊に及ぶ本の修理が行われるなど、市民との協働で図書館が運営されている。リサイクルブックフェアでは、古くなった本7,000冊が有料販売と無料配布により有効活用されている。これら市民との協働は、市民が図書館を利用するきっかけ作りにもなっていて、大いに評価できる。

市民一人当たりの資料費は県内トップであり、幼児から高齢者まで幅広く市民の要望に応える資料収集が行われていることは、大変喜ばしい。

各学校へ図書館奉仕員を派遣したり学校図書館システムを導入したり、子どもの読書活動を支援している。この取組が評価され、文部科学大臣から表

彰を受けている。

<総括>

教育委員会の全体評価

守谷市教育委員会は、新しい時代をたくましく生き抜く人づくりを目指した「守谷市の教育目標」を定め、児童生徒が安心して学べる教育環境を整備しつつ、5つの教育プランに基づいた施策を着実に実行し、成果を上げている。

学校教育環境の整備に積極的な守谷市の姿勢の下、校舎の大規模改修と増築、I C T機器の整備など、快適な学習環境づくりが一段と進められた。

各学校では、具体的なテーマや数値目標を設定した校内研修が活発に行われ、教職員の授業力アップが図られている。これら教職員の努力により、「確かな学力の育成」で大きな成果が上げられている。例えば、守谷市独自の予算で雇用された学習支援ティーチャールの配置により、各学校で少人数授業やT Tによる学習指導が可能となり、定着度に応じた発展的な学習と補充的な学習が進められ、個に応じた教育が効果的に推進されている。また、「豊かな心をはぐくむ教育」、「健康と体力をはぐくむ教育」、「新しい時代に対応した教育」も着実に推進されている。

各学校と保護者や地域住民との連携もすばらしい。学校はホームページやメールマガジンの配信や学校公開日の設定により保護者・地域住民に学校の情報を積極的に発信している。保護者・地域住民は、学校支援ボランティアとして、学習、行事、クラブ活動、環境、防犯など多方面で教育力を発揮して、学校教育を支援している。

生涯学習事業では、学習・交流活動及び芸術・文化活動の機会と場所を提供し、市民が自主的に生涯学習活動に参加できるよう積極的に支援している。図書館は市民の意向を反映する運営により市民から好評を得ている。

以上のように、教育委員会と学校は、保護者や地域と連携を取りながら学校教育・指導室事業で着実に成果を上げており、給食センター事業、生涯学習・社会教育事業、図書館事業を含め、平成26年度に実施された教育委員会の施策・事業は全体として高く評価できる。教育行政は極めて効果的に推進されたと判断できる。

激しく変化する社会情勢の下、教育現場における施策・事業を吟味・選択することにより、教育行政をより効果的に推進して、先導的な守谷市の教育を更に発展させていただきたい。